

1 教育目標

○本質を問い、本質を見極める力を養う

2 中期的目標

- 1. 広い視野と深い思考につながる授業展開と特色教育を行い、自ら考え行動できる生徒の育成
- 2. 明確な目標を持ち、積極的な進路選択につながる丁寧な進路指導とトップ進学校としての実績向上
- 3. 弛まぬ向上心に満ちた友好的な職場環境の整備
- 4. 選ばれる学校としての広報活動の実施

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見																								
① 学校評価 ■生徒のアンケートは年 2 回実施し、ほとんどの項目で高評価を得ているが、施設・整備に関しては経年劣化が目立つため要精査項目となっている。 ■保護者のアンケートは年 2 回実施し、概ね高評価であるが、施設・設備に関しては生徒と同様に要改善項目となっている。 ここ数年で体育館の空調整備、図書館、進路指導室、休養室、体育館の LED 化などのリニューアルを行い、今年度は DX ハイスクール指定校に伴い視聴覚教室を ICT 機器により充実を図った。 ② 授業評価 授業評価アンケートは年 2 回実施しており総合評価のポイントは下記のとおりである。2 回目で多少落ちているが 75 ポイントが良好判断の基準とされており、概ね良い結果であった。 <table><tr><th>中学</th><th>全体</th><th>教壇系</th><th>実技系</th></tr><tr><td>1 回目</td><td>83.8</td><td>83.0</td><td>85.5</td></tr><tr><td>2 回目</td><td>82.9</td><td>82.4</td><td>84.0</td></tr><tr><th>高校</th><th>全体</th><th>教壇系</th><th>実技系</th></tr><tr><td>1 回目</td><td>87.3</td><td>87.2</td><td>88.0</td></tr><tr><td>2 回目</td><td>87.1</td><td>87.1</td><td>87.2</td></tr></table> ③ 教育方針 具体的な教育目標に関しては概ね達成できた。 進路目標に関しても、設定目標はほぼ達成できた。 募集目標に関しては、中学の入学者数と高校の専願者数は増加したが、地域の少子化が激しく対応が課題である。	中学	全体	教壇系	実技系	1 回目	83.8	83.0	85.5	2 回目	82.9	82.4	84.0	高校	全体	教壇系	実技系	1 回目	87.3	87.2	88.0	2 回目	87.1	87.1	87.2	① 委員会の体制 大阪公立大学教授・彼方町会長・彼方町副会長・保護者会会長・校長・教頭・主幹 2 名・事務長 ② 委員会の実施日 第 1 回 8 月 5 日（月）14：00 第 2 回 3 月 4 日（木）10：00 ③ 自己評価の結果に対する評価 1 回目は今年度の目標を中心にご理解いただき、2 回目は年度を振り返る形をとっている。概ね説明内容を肯定的にご理解いただいている。意見では下記のようなものが出た。 ○生徒募集が厳しいようだが、少子化の現状を把握した。抜本的な改革が必要なのだと思う。 ○少子化は厳しいが、公立も同じ状況なので今耐え忍んで周りが統廃合されていく時に残っていられる工夫をするべき。
中学	全体	教壇系	実技系																						
1 回目	83.8	83.0	85.5																						
2 回目	82.9	82.4	84.0																						
高校	全体	教壇系	実技系																						
1 回目	87.3	87.2	88.0																						
2 回目	87.1	87.1	87.2																						

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 授業・特色教育	(1) 教育目標「本質を問い、本質を見極める力を養う」の実現のための教育内容づくり	① 自ら学ぶ姿勢を養う日々の学びの充実（富読・Tonglish） ② 深い学びへの授業の質の向上（問い・質問力を鍛える） ③ 学びの拡充と実力養成のための放課後有効利用	① 日々の様子と英語リスニング偏差値の推移 ② 教員対象、年度末の問いの振り返りシーートの提出 ③ 国数英の偏差値推移	① 形骸化をなくす工夫を生徒会とともに実施し、良い形になりつつある。 ② ほぼ全教員からの提出があり前向きに取り組めている。 ③ 高 1 は上位層が例年並みで、下位層が減少している。高 2 は上位層はいるが下位層が多く底上げが必要である。高 3 の進学実績は難関大こそ少なかったが、近年では国公立大合格の在籍者数割合が最も高い結果となった。	① 朝夕の取り組みの形骸化を防ぐ ② 問いを意識した授業展開を行う意識の共有を強化する ③ 内容を魅力的な講座とし参加者を増やす
	(2) 授業方法の改善を図り次世代の教育方法を模索する	① ICT に関する定期的な勉強会 ② 探究活動の充実と「書く」ことの強化 ③ 対話型論証の授業方法の研究	① 勉強会で必要な内容の精査と実施回数 ② 探究コンテストなどでの入賞と行事などで「書く」ことを設定できたか ③ 京都大学松下佳代教授の指導による事前討議・研究授業・事後討議を行う中で対話型論証の型を踏めているか	① DX ハイスクールの準備も兼ねて生成 AI の研修が持てた。 ② 各分野での入賞者があり、「書く」機会も多く持てた。 ③ 対話型論証の予定していた研究授業がすべて終了し、型を踏み、深い思考につながれるようになった。	① 行事予定に入れ計画的に実施 ② 高校での論文完成の質を上げる ③ 対話型論証を教員全体に広める

2 進路指導	(1) 2025 年度大学入試の安定した進学実績と2026 年度大学入試での飛躍的な向上に向けての進学指導の強化	① 難関大対策プロジェクトリーダー（NPL）により、飛躍的な実績向上に向けての取り組みを実施する。高大連携企画によりモチベーションを上げる。 ② オンデマンド教材・AI 教材のシラバスへの反映および計画的な小論文指導を通じて個別最適学習の徹底を図る。 ③ 進路講演会・進路説明会・進路対策会議・出願検討会・NPL 会議の充実をはかり実績の向上と進路指導方法の継承 ④ 進路データ管理の徹底と経年比較による分析で長期的視野を持つ。 ⑤ 成績層の幅の広い高校 3 年の進学実績の向上	① 年間会議の回数と充実 連携企画は生徒の満足度 ② 国公立推薦型合格者数 20 名 ③ 冊子の作成 ④ 会議での分析報告 ⑤ 実績目標数 ・国公立大学 在籍者数の 30% ・医歯薬系 10 名 ・早慶上理関関同立 在籍者数の 50%	① 会議の予定回数と企画ともに、充実した内容で実施できた。 ② 個別最適学習の実施は丁寧に行ったが推薦型合格者数の目標には到達せず対策に関しては課題あり。 ③ 説明会でも使用できる物の作成ができた。 ④ 会議での分析は丁寧に行えた。 ⑤ 生徒の母集団が小さかったが、国公立大学に関しては達成できた。他の目標数値はわずかに届かなかった。	・国公立推薦型入試の受験指導の強化 ・進路のしおりの充実 ・高大連携企画の更なる充実
3 職場環境	(1) 明るい印象を与える職場環境を整える	① コミュニケーションルームの有効利用 ② 段階的に施設内を LED 化	①利用頻度 ②計画的に整備していく	① 多く利用するようになった。 ② 整備完成できなかった。	今後とも段階的に LED 化していく
4 広報活動	(1) 入試広報の強化をはかり、定員確保と安定経営の回復を目指す	①入試部の組織運営強化 ②広報地域の重点化とデジタルサイネージなどの利用 ③中学入試特別奨学生制度の扱いの検討 ④医学への道・高大連携・特進コース英語教科などの新しい取り組みの広報 ⑤不易流行を意識した丁寧な生徒指導の広報 ⑥HP の計画的更新（学年分担・教室より・校長室より・Instagram）	① 入試部体制の整備 ② 沿線上の中学からの入学者数確保 ③ 特別奨学生制度の利用数 ④ 説明会での内容に盛り込む ⑤ 説明会での内容に盛り込む ⑥ HP での閲覧数	① 機能的になり迅速に企画運営ができた。 ② 少子化と北への進学意識が強い中、専願数が増加した大阪市内からの入学も微増した。 ③ 優秀生徒の入学がかなった ④ ⑤説明会では話せたが広く認知されることが課題。 ⑥ 毎日更新を行い閲覧数の向上につながった。	定員確保のため、他校にない教育内容を広く認知してもらうこと、質の違う進学実績を達成すること、効果的な広報活動を行う